

東京大学保有資産

《 二宮果樹園跡地 》

(所 在)

〒256-0131

神奈川県中郡二宮町中里 518



(沿 革)

1915 年

園田幸吉(男爵、横浜正金銀行頭取等を歴任)が、持病悪化のため当地(吾妻村中里、現:二宮町中里)に別荘と果樹園を構え、療養生活に入る。

(写真右、1923年関東大震災で逝去)

1926 年 3 月

東京帝国大学が同地を取得、農学部附属農場果樹園を移転、吾妻果樹園と称す。

1935 年 11 月

吾妻果樹園を二宮果樹園と改称。

1947 年 10 月

東京大学農学部附属農場の施設となる。

2000 年 4 月

東京大学大学院農学生命科学研究科附属となる。

2004 年 4 月

東京大学が国立大学法人となる。

2008 年 3 月

二宮果樹園が閉園される。



↑授爵当時の肖像
(大正8年72歳)



《二宮果樹園詳細・圃場配置図》



二宮果樹園跡地建物一覧(東京大学調査結果)

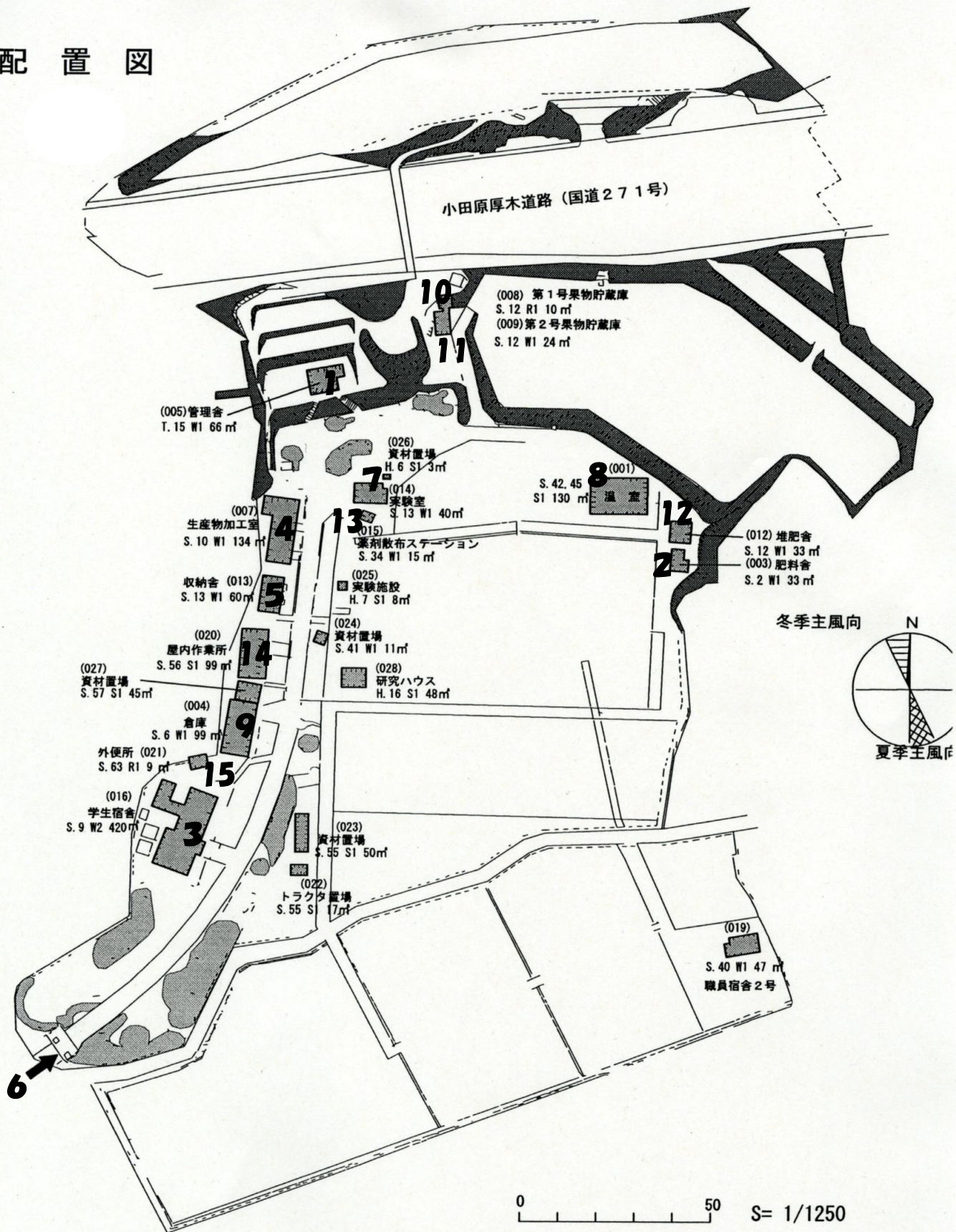
(【構造】 RC:鉄筋コンクリート造、 S:鉄骨造、 W:木造)

No.	建物番号	建物名称	竣工年	構造・階数	建物面積(㎡)	東京大学の見解
1	(005)	管理舎	1926(T15).11 新 築	W1	建： 66 延： 66	吾妻果樹園新設(後の二宮果樹園)当時からある、観音開きのルーバー付の建築当時としてはモダンな建物でもあり、他の田無(現西東京)を含む農場建物に見ることができない外観をもつ。
2	(003)	肥料舎	1926(T10). 3 新 築	W1	建： 33 延： 33	園田孝吉男爵が建築し園田武彦氏が家督相続したものを大正15年3月31日に25円で購入。当初は草葺であった。現存する建物で最も古く、園田孝吉男爵が建築した唯一の建物ではあるが、老朽化が激しいので保存については要検討。
3	(016)	学生宿舍	1934(S 9).12 新 築	W2	建： 233 延： 419	田無にある学生宿舍と全く同じ建物で、田無よりも先に建てられていることから、建築当時の営繕課長であった内田祥三元総長の監修下で建てられたと推定される。平成7年に屋根、平成9年にトイレ改修等が施され現在に至る。
4	(007)	生産物加工室	1935(S10).10 新 築	W1	建： 133 延： 133	建築年から、当時の営繕課長であった内田祥三元総長の監修下で建てられたと推定される。越屋根付の2つの切妻がTの字型に配置されている、他の田無(現西東京)を含む農場建物に見ることができない外観を持つ。ここで生産されていたイチジクの缶詰は宮中に献上され、昭和天皇の好物であった。
5	(013)	収納舎	1938(S13). 1 新 築	W1	建： 59 延： 59	建築年から、当時の営繕課長であった内田祥三元総長の監修下で建てられたと推定される。他の田無(現西東京)を含む農場建物の典型的な様式である西洋建築の柱構造をもつ。
6	—	門(門柱)	1934(S9).12 新 築	RC		鉄筋コンクリート造石積両開大扉付。田無(現西東京)の農場本体の門柱よりも一回り大きく立派である。

7	(014)	実験室	1938(S13). 2 新 築	W1	建： 39 延： 39	
8	(001)	温 室	1967(S42). 3 新 築	S1	建： 129 延： 129	
9	(004)	第一号倉庫	1931(S 6).10 新 築	W1	建： 99 延： 99	
10	(008)	第一号果物貯蔵庫	1937(S12). 1 新 築	RC1	建： 8 延： 8	
11	(009)	第二号果物貯蔵庫	1937(S12). 1 新 築	W1	建： 24 延： 24	
12	(012)	堆肥舎	1937(S12).10 新 築	W1	建： 33 延： 33	
13	(015)	薬剤散布ステーション	1959(S34). 1 新 築	W1	建： 14 延： 14	
14	(020)	屋内作業場	1981(S56). 3 新 築	S1	建： 102 延： 102	
15	(021)	外便所	1988(S63). 3 新 築	RC1	建： 9 延： 9	

吾妻果樹園(後に、二宮果樹園、二宮農場、二宮果樹園に改称):大正15年、昭和2年、昭和5年の3回にわたり、計約4.6ヘクタール(現在は3.97ヘクタール)の用地を購入、宅地跡、水田を転換して果樹園を造成した。用地の購入にあたっては、当時、東京に近く、しかもミカンの経済的栽培が可能であるという点が考慮された。敷地の大部分(約85%)は園田孝吉男爵の別荘跡地で、家督相続した園田武彦から買収し、残りの敷地は、(株)駿河銀行、高橋忠五郎、脇繁吉から買収した。なお、園田孝吉男爵は鹿児島県生まれの外交官で、後に銀行家(横浜正金銀行(本店は現在、神奈川県立歴史博物館となっている。))・第十五銀行頭取)となった。関東大震災時にこの二宮別荘で圧死している。

配置図





内田 祥三（うちだ よしかず 1885年2月23日 - 1972年12月14日）

建築学者、建築家。東京帝国大学総長も務めた。東京帝国大学建築学科を卒業時、同期は笠原敏郎ら5人（後に笠原と市街地建築物法を起草）。在学中から三菱ビジネス街の建築実習。卒業後は三菱建築所に入社し、13号館などを一手に担当。その後母校東大の大学院に進学し、コンクリート構造の研究を始める。1911年東大建築学科で講師として構造計算法と鉄骨および鉄筋コンクリートの講義を担当。佐野利器の建築構造学を引き継ぐ形で発展させ、建築構造、防災、都市計画、文化財修復など数多くの分野に業績を残すとともに、東京帝国大学営繕部長も兼務し、多くの後進を育てた。

※掲載物件は一部のみ



学校施設

東京大学
農学部三号館

東京都文京区弥生 1-1-1

設計：内田祥三

竣工年：1914年（大正3年）



学校施設

国登録有形文化財

東京大学 安田講堂

東京都文京区本郷 7-3-1

設計：内田祥三

竣工年：1925年（大正14年）



学校施設

東京大学
工学部列品館

東京都文京区本郷 7-3-1

設計：内田祥三

竣工年：1925年（大正14年）



医療施設

浴風会本館

東京都杉並区高井戸西 1-12-1

設計：内田祥三/土岐達人

竣工年：1926年（昭和元年）



学校施設

東京大学 総合図書館

東京都文京区本郷 7-3-1

設計：内田祥三

竣工年：1928年（昭和3年）



学校施設

東京大学
医学部附属病院

東京都文京区本郷 7-3-1

設計：内田祥三

竣工年：1928年（昭和3年）



研究/計測施設

東方文化学院
東京研究所

拓殖大学 国際教育会館

東京都文京区大塚 1-7-1

設計：内田祥三

竣工年：1933年（昭和8年）



学校施設

東京大学
工学部一号館

東京都文京区本郷 7-3-1

設計：内田祥三

竣工年：1935年（昭和10年）